

和歌山県都市計画マスタープラン
都市計画区域マスタープラン
(東牟婁圏域)

～概要版～

平成 27 年 5 月

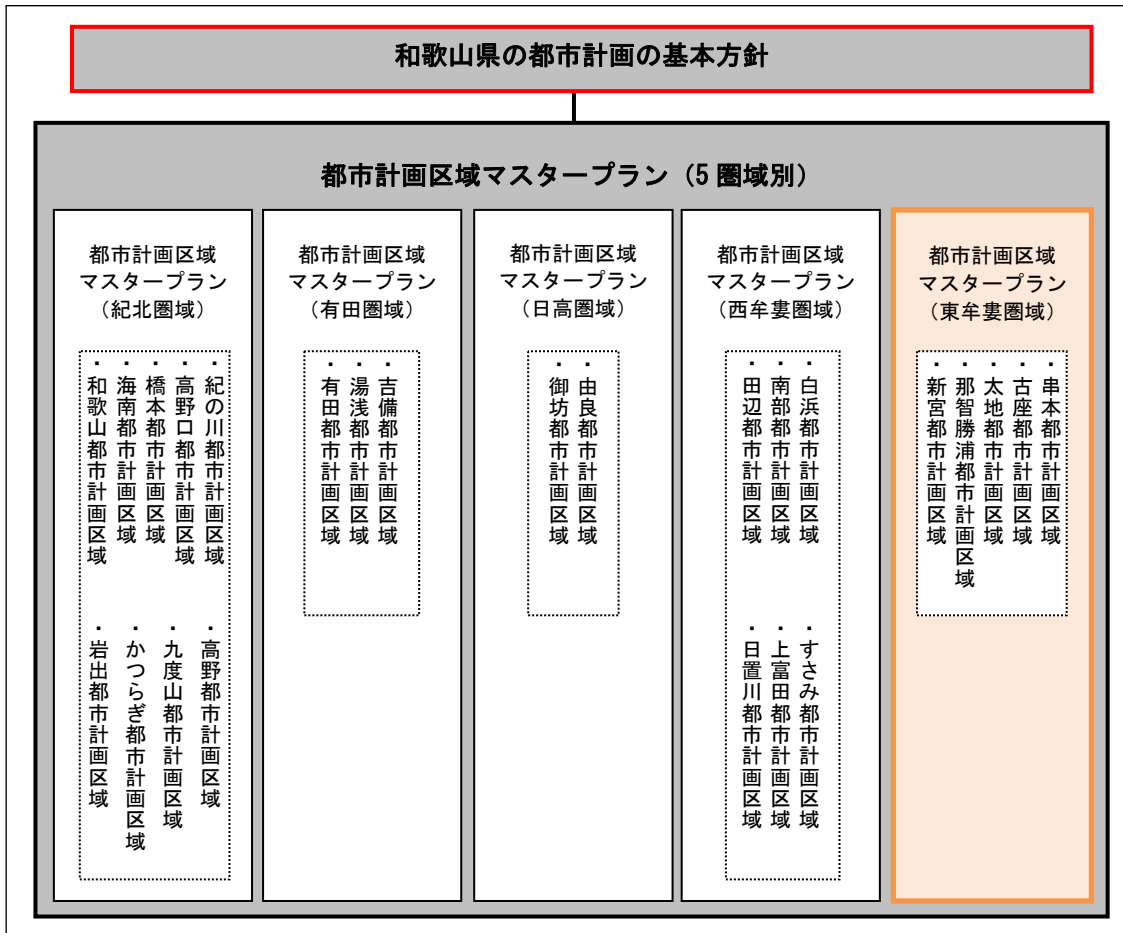
和歌山県

■ 和歌山県都市計画区域マスタープランの基本事項

構成

和歌山県都市計画マスタープランは、「和歌山県の都市計画の基本方針」、5 圏域別の「都市計画区域マスタープラン」で構成されています。

このうち、本計画は、対象範囲を東牟婁圏域として、都市計画の基本的な考え方を示した「都市計画区域マスタープラン（東牟婁圏域）」となります。



※1 東牟婁圏域：東牟婁圏域は、新宮市・那智勝浦町・太地町・古座川町・北山村・串本町の 1 市 4 町 1 村を対象にしています。

内容

本計画は、東牟婁圏域を対象としており、圏域の将来像・基本理念、及びこれを実現するための都市計画の基本的な考え方や、都市計画と比較的関連が深い政策の方針を示しています。

また、都市計画区域以外についてのまちづくりの考え方も示しています。

本計画は、別冊「和歌山県の都市計画の基本方針」に示す県全体の考え方を受けて策定した東牟婁圏域の計画です。

和歌山県と市町村の役割

和歌山県は、県土全体の発展を見据え「広域的な視点でのまちづくり」「先導的な視点でのまちづくり」を市町村と密接に連携して進めます。

一方、市町村は、基礎自治体としての責任を持って「地域の実情に沿ったまちづくり」を展開していきます。

なお、本県における今後の都市計画は、この都市計画区域マスタープランの内容に即して進められるよう、各市町において地域の特色を活かした市町村マスタープランの早期策定・見直し及び都市計画の決定・運用を促進します。

■ 圏域図



第1章 都市計画の目標

1 将来の見通し

過去の動向が今後も推移するものとして、2025年（平成37年）の圏域の人口等を推計すると、以下のように減少傾向となり、これらの傾向を考慮に入れて計画を行うものとします。

項目	平成22年	平成37年
人口	7.4万人	5.8万人（▲1.6万人）
- 老年人口割合	34.9%	43.9%（▲9.0ポイント）
- 生産年齢人口割合	54.0%	47.4%（▲6.6ポイント）
- 年少人口割合	11.1%	8.7%（▲2.2ポイント）
世帯数	3.3万世帯	2.9万世帯（▲0.4万世帯）

2 都市づくりの基本理念

2-1 集約拠点ネットワーク型のまちづくり

- ◆熊野地方の拠点都市としての機能を持つ「新宮」の市街地中心部の再生
- ◆生活拠点「那智勝浦」「太地」「串本」の市街地中心部の再生
- ◆誰もが暮らしやすく、快適にすごせる美しい市街地の再生
- ◆都市構造の転換による低炭素都市づくり
- ◆自然、歴史文化などの地域個性あふれる都市づくり
- ◆経済・財政規模に応じた、まとまりある良質で住みやすい都市づくり
- ◆市街地外縁部等の無秩序な開発の抑制によるまちなか居住の推進

2-2 交流による活力あるまちづくり

- ◆豊かな自然と熊野の心を活かし、価値を創造発信するまちづくり
- ◆交流を促し支える都市基盤と交通システムづくり
- ◆熊野地方の観光交流の拠点である「那智勝浦」の市街地の再生
- ◆地域間を安全、快適に結び、魅力を高めるネットワークづくり

2-3 安全・安心な（南海トラフ地震等を 見据えた）まちづくり

- ◆地震や津波等に強いまちづくり
- ◆代替性・多重性のある交通体系づくり
- ◆避難・救援の都市システムづくり
- ◆医療・福祉機能が充実した都市づくり

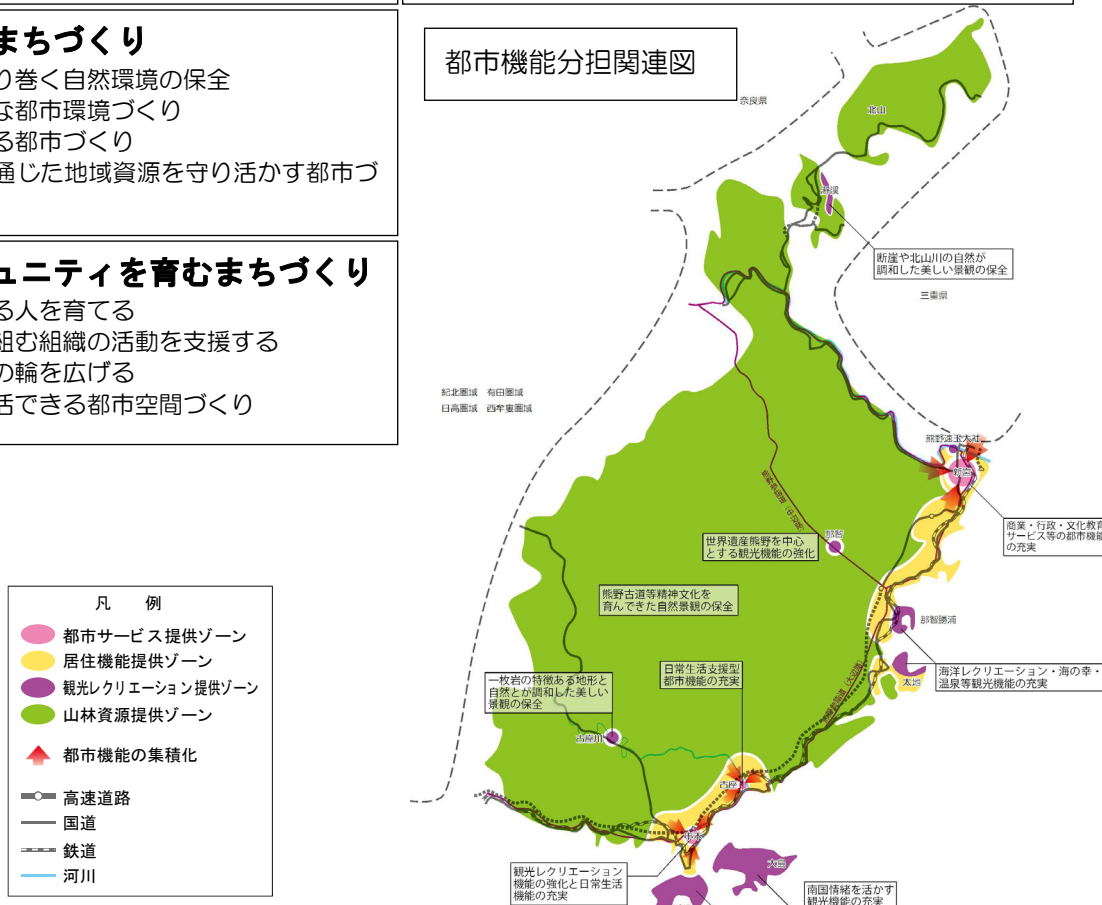
2-4 環境共生のまちづくり

- ◆都市・市街地を取り巻く自然環境の保全
- ◆自然を活かす快適な都市環境づくり
- ◆循環型社会を支える都市づくり
- ◆良好な景観形成を通じた地域資源を守り活かす都市づくり

2-5 ひと・コミュニティを育むまちづくり

- ◆まちづくりを支える人を育てる
- ◆まちづくりに取り組む組織の活動を支援する
- ◆まちづくりの交流の輪を広げる
- ◆誰もが安心して生活できる都市空間づくり

都市機能分担関連図



凡 例	
●	都市サービス提供ゾーン
●	居住機能提供ゾーン
●	観光レクリエーション提供ゾーン
●	山林資源提供ゾーン
▲	都市機能の集積化
—	高速道路
—	国道
—	鉄道
—	河川

■ 都市計画などの方針

1 都市計画区域及び区域区分の方針

1-1 都市計画区域の指定の方針

都市計画区域は、都市的な宅地需要が高い区域や都市施設整備の必要がある区域を対象とし、農林漁業との調和を図りながら良好な都市生活や都市活動を確保する範囲に指定します。

本圏域の都市計画区域の範囲は、概ね平野部の宅地が集積する区域を含めていますが、地形的に平野部の後背には山地が迫っており、海岸沿いに帯状に分布しています。

地形的な制約により、コンパクトな都市計画区域に指定されていますが、道路等の基盤施設が整ったことによって宅地需要の高くなる谷筋や河川平野については、都市計画区域の拡大を推進していきます。

また、現状の市街地の広がりや住民の生活圏域などを考慮し、広域的な視点から、一の市町村の区域を超える広域都市計画区域の再編検討に努めます。

1-2 準都市計画区域の指定の方針

準都市計画区域は、都市計画区域外の局地的な開発地において無秩序な商工業施設の立地や宅地開発を規制・誘導する必要がある区域に指定します。

本圏域では、今後、以下に掲げる市町村の都市計画区域外において、建築物の建ぺい率、容積率、用途等の規制・誘導が必要となった場合に、準都市計画区域の調査、計画を検討します。

新宮市、那智勝浦町、古座川町、北山村、串本町

1-3 区域区分の有無の検討

東牟婁圏域では、区域区分（市街化区域と市街化調整区域の区分）は行いません。

2 主要な都市計画などの決定方針

2-1 土地利用に関する方針

2-1-1 基本的な考え方

- ◆市街地中心部の再生のための土地利用の誘導
- ◆安全で活力ある都市の形成
- ◆郊外部や農村地域での無秩序な宅地開発の防止
- ◆広域交流を支援する土地利用の誘導
- ◆防災上危険な地域の土地利用の誘導による安全なまちの形成
- ◆優れた自然の保全や都市環境の向上のための土地利用の適正な誘導

2-1-2 用途地域の指定の方針

用途地域は市町村が決定する都市計画であり、本圏域の中では以下の都市計画区域での指定又は変更を促します。

・新宮都市計画区域 ・那智勝浦都市計画区域 ・串本都市計画区域

すでに用途地域が指定されている地域では、土地利用動向や社会情勢を勘案し、適切に用途地域を見直し、用途地域が指定されていない地域では、地域の実情に応じた適切な用途地域の指定を検討します。

また、実際に用途地域の指定及び変更を行う際は、農林漁業との適切な調整を行うとともに計画段階から住民の主体的参加や合意形成を促し、地区計画などを併用しながら、都市の将来像の実現にふさわしく、かつ地域の実態に即したきめ細やかな建物用途や形態等の規制、誘導を行うように促します。

2-1-3 主要な用途の配置の方針

用途地域を指定する地域、及び用途地域の指定を行わないが都市的土地利用を行う地域について、主に住宅地、商業地、工業地の概ねの土地利用の配置の方針を示します。

また、市街地を取り巻く田園地域や山林地域においては、原則として市街化を抑制します。

住宅地	位置	・新宮市、那智勝浦町、太地町、古座川町、串本町の市街地
	方針	・小規模な商業施設や地場産業施設等との共存を認めながら、住環境を保全する住宅地としての土地利用を誘導
住宅 専用地	位置	・市街地周辺の山裾・丘陵地に形成された低層の住宅地
	方針	・現状のゆとりある良好な居住環境を維持しながら、住宅専用地としての土地利用を誘導
商業地	位置	・新宮市の中心部周辺、那智勝浦町の紀伊勝浦駅周辺など JR の駅周辺に形成されている市街地
	方針	・生活支援機能の充実を図るために、商業地としての土地利用を誘導
工業地	位置	①新宮市の新宮港第二期工業用地、那智勝浦町などの臨海部や熊野川河口 ②新宮市の三輪崎地区、新宮港の一部、那智勝浦町の築地地区、太地町の太地漁港周辺等
	方針	①工業の生産環境を維持できるように工業地としての土地利用を誘導 ②住宅と古くからの水産加工場等地場産業との混在が進んでいるため、一定の混在を認める工業系の土地利用を誘導
農業・ 集落地	位置	・農地や農村集落
	方針	・農業生産環境の維持のために農地を保全するとともに、地域のコミュニティの維持や地域活性化のための土地利用を誘導
山林 緑地	位置	①市街地の背景となる山林部 ②熊野古道周辺
	方針	①自然環境の保全や交流の場としての活用を図る ②歴史・文化的景観を保全

土地利用に関する方針図



2-1-4 その他の土地利用の方針

用途を転換していく方針	・那智勝浦道路の開通に伴い、その周辺では商工業等の流通や観光サービス、広域商業サービスを目的とした施設の進出が予想され、またその他幹線の整備に伴う用途の転換や、住宅市街地内の幹線道路における住宅から商業への用途の転換が進行する可能性が高い地区についても計画的な規制誘導の調査を促進
居住環境の改善又は維持に関する方針	・新宮市の神倉地区・千穂地区・三輪崎地区、那智勝浦町の宇久井地区、太地町の太地地区、串本町の串本地区・古座地区等の密集市街地では、耐震・耐火対策や緊急車両の進入路の確保等、市街地の防災面の安全性の向上や駐車場の整備など利便性の向上のために住民の合意形成を図り、市街地の再整備や建築物の修繕や更新など居住環境の改善を促進 ・歴史的なまちなみが残る地域は、各地域の特性に応じた良好なまちなみ景観への誘導を促進
都市内の緑地又は都市の風致の維持に関する方針	・良好な自然や風致景観は、国立公園等により一定の規制が行われているために、これらの法規制を維持し、都市内の良好な緑地や景観の保全を促進
優良な農地との健全な調和に関する方針	・用途地域の外縁部や市街地の外縁部などの農業振興地域内の優良農地は、無秩序な開発が行われないように保全を促進
津波等災害防止の観点から市街化の抑制に関する方針	・本圏域では地震による津波や土砂災害等による被害が想定されることから、これらの区域においては土砂災害警戒区域等の指定などにより、市街化の抑制を促進 ・既存の市街地が津波浸水想定範囲に含まれる場合は、津波防災地域づくりを総合的に推進するための計画（推進計画）等を踏まえ、適切な土地利用の誘導を図る
自然環境形成の観点から必要な保全の方針	・良好な自然は、国立公園等の指定により保全措置が執られていることから、今後とも現在の法規制を維持し、良好な自然環境の保全、形成を促進
秩序ある都市的土地利用の実現に関する方針	・都市と農漁村が共存している地域では、農漁村集落地等の良好な住環境を維持するために、地域の実情に応じた容積率や建ぺい率の建物の立地を規制誘導する建築規制を行う ・用途地域の指定のない区域であっても、幹線道路沿道や那智勝浦道路など、今後開発や建築活動が活発に行われることが予想される区域では、建物用途の混在等による居住環境の悪化を防止するために、特定の建物用途の立地制限を行う制度である特定用途制限地域等の調査を促進

2-2 都市施設（供給処理施設、教育・文化施設、厚生・福祉施設）の整備に関する方針

2-2-1 基本的な考え方

- ◆今後の都市活動や財政規模に見合った都市施設の整備及び計画見直し
- ◆広域交流ネットワークの根幹となる都市施設の整備
- ◆災害の防止や避難、救援機能をもつ都市施設の整備
- ◆誰もが安心して生活できる広域医療体制の整備
- ◆誰にでもわかりやすく使いやすい都市の環境づくり
- ◆港湾・海岸の機能充実

2-2-2 基本方針

○下水道

都市生活の快適性・安全性や環境保全とともに、観光サービスの基盤施設となる観点から、和歌山県全県域污水適正処理構想において位置づけた公共下水道は、全戸整備を目標に進めます。

また、浸水対策については、被害が軽減できるよう検討を促します。

○下水道以外の都市施設

効率的な産業活動や快適な都市生活を確保するために必要となる都市施設は、その他の都市計画との計画調整や関係者間の合意形成を図り、円滑な整備が進むように都市計画決定を行います。

これらの都市施設は、複数の都市を受益範囲とする広域施設としての整備を促し、集中投資による施設機能の強化や施設維持・管理の向上を図ります。

また、都市施設の運営については、民間ノウハウの導入を視野に入れ、PFI等の調査・計画を促します。

2-3 交通に関する方針

2-3-1 基本的な考え方

- ◆拠点市街地等を連携する公共交通システムの充実
- ◆自動車へ過度に依存しない交通体系の形成
- ◆多様な交通手段の結節システムの整備
- ◆誰もが出かけられる近隣環境の整備
- ◆市街地中心部再生の根幹となる道路等の整備
- ◆観光資源としての歩行者系ルート of 整備
- ◆観光用海上ルート of 整備

2-3-2 基本方針

1. 紀伊半島南部の広域交流を支える交通体系の形成を実現するため、海沿いの都市を連結する広域交通網とそれを補完する河川沿いの都市間や都市内の交通網を配置します。
2. 安全・安心な都市生活を確保するために、海の交通も含めた災害時・緊急時の避難・輸送ルートの確保に努めます。とくに、物流の結節点でもある港湾とのネットワークの形成を促します。
3. 快適で利便性の高い市民の生活基盤として、市街地内の道路網を機能的に配置し、良好な環境や景観の形成に配慮するとともに、誰もが利用しやすい施設のバリアフリー化に努めます。
4. 熊野川沿いの優れた名勝、歴史資源や観光地へのアクセス機能を高めることにより、熊野観光の振興に資するような交通網の形成を図ります。また、駅前広場は交流の玄関口としてアメニティ豊かな整備に努めます。

2-4 自然的環境に関する方針

吉野熊野国立公園、串本海中公園等の特色のある自然環境や歴史文化を受け継ぎ、安全で快適な生活環境を確保していくよう調和のとれた緑地保全、都市内緑地の配置を図っていきます。さらにこれらの緑地は、豊かな都市生活を営めるようなアメニティの向上や圏域外に発信できる観光資源として活用できるような配置・整備をめざしていきます。

また、南紀熊野には、大地の地形・地質の遺産をはじめ、自然環境や熊野信仰などに関する地域の資源が豊富に存在しており、世界ジオパークの認定に向けて、南紀熊野ジオパーク構想を推進します。

2-4-1 基本的な考え方

- ◆市街地中心部の利便や防災に配慮した公園広場の整備や緑のネットワークの形成
- ◆広域交流の拠点となる公園緑地の整備や特色のある緑地の保全
- ◆風害、延焼、水害等を防ぐ防災機能を有する緑地の保全
- ◆都市の自然環境、郷土景観等の骨格を形成している緑地等の保全と自然環境に配慮した都市施設の整備
- ◆省資源とリサイクルに配慮するまちづくり
- ◆廃棄物の適正処理体制の構築
- ◆農業や里山と調和する循環型まちづくり
- ◆再生可能エネルギーによる地域産業の創造

2-5 市街地整備に関する方針

2-5-1 基本的な考え方

- ◆市街地中心部再生のための市街地整備の促進
- ◆郊外部や新市街地での市街地開発の見直しと既存の都市ストックの活用
- ◆広域交流拠点や地域の高質な都市空間の形成を図る市街地整備の促進
- ◆密集市街地の再整備の促進
- ◆津波や水害・土砂災害を見据えた市街地整備
- ◆安全で快適なまちなかでの居住の支援と促進
- ◆安心して暮らせる高齢者の住まい

2-6 景観形成のまちづくり

- ◆優れた街並み景観を創造するまちづくり
- ◆優れた文化遺産を継承し活用するまちづくり
- ◆優れた自然景観を継承し活用するまちづくり
- ◆地域の特性を活かした住民主体の景観づくり

2-7 防災に関する方針

- ◆都市災害の防備
- ◆自然災害の防備
- ◆南海トラフ地震等の災害への対応
- ◆救急救援ネットワークの整備
- ◆防災意識の向上

2-8 協働に関する方針

- ◆住民・市町村・県との連携による協働のまちづくり
- ◆地域の個性を尊重した協働のまちづくり
- ◆協働のまちづくりを支える情報通信ネットワークの向上
- ◆協働による安全・安心の確保
- ◆住民によるまちづくりを促す制度の整備
- ◆協働のまちづくりに関わる人材の育成

■ 都市計画区域外について

1 まちづくりの視点

まちの魅力を活かすまちづくり

- ・自然、歴史文化などの地域個性あふれるまちづくり
- ・地域の個性を見つめ直し、自然・歴史文化・産業を活かし、創造するまちづくり
- ・多様な観光に備えたまちづくり
- ・まちを形成する自然環境の保全

安全・安心なまちづくり

- ・災害に強いまちづくり
- ・医療・福祉機能を確保するまちづくり

みんなで考えるまちづくり

- ・まちづくりを支える人を育てる
- ・まちづくりに取り組む組織の活動を支援する
- ・まちづくりの交流の輪を広げる